



## 障がい者スポーツを支援して 無理解や偏見の是正を目指す

### 神奈川県遊技場協同組合 「障害者のスポーツの育成支援 『車椅子バスケットボール支援6年』」事業



神奈川県遊技場協同組合  
理事長  
伊坂 重憲さん

### 関東車椅子バスケットボール連盟に 資金支援

障がい者スポーツの中でも花形と言われる車いすバスケットボール。車いすでプレーするために改められた若干のルールを除き、コート大きさ、ゴールの高さ、使用するボールなどは、すべて一般のバスケットボールと同様である。正式競技の場合、障がいの程度に応じて各自に1.0～4.5点の持ち点が定められ、試合中にコート上にいる5人の選手の合計が14.0点を超えてはいけないことになっている。

関東での統括団体となる一般社団法人関東車椅子バスケットボール連盟は東京を除く関東6県で活動する15の車いすバスケットボールチームで組織され、神奈川県からは最多の8チームが加盟している。

これまでも多くの日本代表選手を輩出してきた同連盟は、国際大会などでのメダル獲得に向け、計画的に世界で通用する選手の発掘・育成・強化活動を行っているが、その活動に賛同した神奈川県遊技場協同組合（以下、神遊協）では、同連盟に対し、2015年から2020年までの6年間にわたり、活動スポンサーとして毎年30万円の活動資金を支援することにした。

昨年4月28日には、神遊協会館においてその贈呈式が行われ、出席した同連盟の横瀬英里子強化指導部兼普及部長から、「障がい者スポーツの普及活動や世界に通用するような選手を育成するために活かしていきたい」という決意表明とともに、神遊協の伊坂重憲理事



活動資金贈呈式



支援により障がい者スポーツの理解・普及を図る



全国ジュニア選抜車椅子バスケットボール大会。2020年に向けて若い世代の育成にも力を入れる

長に感謝状が贈られた。なお、この贈呈式の模様は、毎日新聞に掲載された。

### 支援で障がい者スポーツの 理解・普及に貢献

今回の活動資金の支援にあたって、その目的を神遊協では以下のように話す。「国際大会などを目指す障がい者アスリートは、健常者アスリートと比べて社会的な理解度が低く、競技に打ち込む環境が整っていません。そこで当組合では、そのような障がい者アスリートに対して物品を含む資金面での支援を行うことで、障がい者スポーツの理解・普及を図るとともに、ハンディキャップを持った方々に夢と希望を与え、さらに、車いすでの生活を余儀なくされている方々に対する社会の偏見の目を変えることにつなげることを目的に、支援を行うことにしました」。

実際に車いすバスケットボールの試合を観戦した神遊協のスタッフは、その激しさに驚くとともに、車いすを自らの足のよう自在に操り、健常者が行うバスケットボール競技に勝るとも劣らない俊敏な動きやテクニックに魅了されたという。同時に、選手たちが自らの障がいに向き合い、鍛錬や努力を重ねているであろう姿が推測され、心を打たれたという。

これまで神遊協では、長年にわたって障がい者に対する支援活動に力を入れており、知的障がい児者のスポーツ大会である「神奈川県ゆうあいピック大会」支援事業、車いす空の旅支援事業、特別支援学校や学級などに通う児童、生徒を対象としたふれあいコンサート事業、国立ポリシヨイサーカスへの招待事業などを行っているが、今回のように障がい者アスリートを支援する取り組みは初めてであり、今後の社会貢献活動のひとつとして大切に育てていきたいという。おりしも神奈川県では、昨年1月に黒岩祐治県知事によって、「パラリンピアンから学ぼう!」を合言葉にする「かながわパラスポーツ推進宣言」が出され、県民の障がい者スポーツに対する意識が高まっていることから、今回の支援は、きわめて時宜にかなったものと言えるだろう。